

人づくり ニュースレター

令和4年度

Vol.1

1.ふれあいサタデーパーク 2.かなみ子育てネットワーク・ぴあ 3.富士宮人づくりの会 4.人づくり地域懇談会

◆ 子どもの育つ環境づくり

ふれあいサタデーパーク

ふれあいサタデーパーク事務局
代表：杉本卓也（人づくり推進員）
問合せ ☎ 054-635-3074



▲ふれサタの旗と杉本卓也推進員

ふれあいサタデーパーク（略して「ふれサタ」）は、杉本卓也推進員を中心に、藤枝市田沼地区で月に2回ほど地域の子どもたちと一緒に活動しています。

ゲームやドッチボール、折り紙や連凧づくりなど、年齢の異なる子どもたちが集まり楽しく遊び、日本の伝統や文化を学ぶ機会を提供しています。



▲ふれサタの年間スケジュール
お芋掘りや豆まきなどの計画も

◇ふれサタの活動

杉本推進員は、平成14年にふれサタを発足させて以来、20年以上にわたり、地域の子どもたちに遊び場・学び場を提供しています。初めは一人で始めた活動ですが、今では活動に多くの地域ボランティアの方々が集まるようになりました。主催する大人も、子どもが喜ぶように工夫することを楽しんでいるといいます。

子どもたちの年齢も、初めは小学生を対象にしていたのですが、保護者同伴で未就学児童も受け入れるようになりました。集まる人々の年代も多様化し、地域での深い交流が生まれています。“いつでもだれでも参加したい活動の時に来ていい”という安心感のあるシステムで、常連の子もいれば初めての子もいて、アットホームな雰囲気の中で活動が行われています。

◇活動への思い

杉本推進員に「生け花は根付かない」という言葉を教えていただきました。「人づくりの活動において、ベストのものはない。他によい例を求める前に、現状と自分たちの力量に合わせ創意工夫しながら目標に向かって取り組めば、そこからよりよいものが生まれてくるし、企画も活動も楽しくなって長続きするね。」と語ります。また、「成果を急がずあきらめずていねいな取組をしていくことが大切。」と、活動を継続させるためのコツを教えてくださいました。



▲マジシャンを招いての「マジックの実演」
タネを見破ろうとしている子もいました

◆ 市町の取組紹介

函南町

ホームスタートかなみ・ぴあ

(事務局) 函南町役場 厚生部 子育て支援課
福祉課

問合せ ホームスタートかなみ・ぴあ

☎ 090-6396-9100



▲長谷川園枝推進員(中央)

「ホームスタート」は1973年にイギリスで始まったボランティア活動で、静岡県では函南町と伊東市で行われています。研修を受けた子育て経験者が6歳以下の未就学児童のいる家庭に訪問し、お話を聴いたり外出に同行したりする活動を行っています。

函南町では、長谷川園枝推進員が理事長を務めるNPO法人かなみ子育てネットワーク・ぴあにホームスタート事業を委託し、地域の子育てに寄り添っています。

◇ホームスタート事業

ホームスタートの主な活動内容は「傾聴」と「協働」です。「傾聴」とは、利用者の気持ちに寄り添い、共感しながら話を聴くことで、「協働」とは、利用者と一緒に家事や育児、外出などをする事です。

各家庭への具体的なサポート内容は、利用者とおrganайザー(調整役)で相談し、organайザーの紹介を受けたホームビジター(訪問者)が支援を行います。友人や親・親戚のようであり、そうではない距離感で寄り添い、利用者と一緒に子どもと遊んだり、一緒に子どもを病院へ連れて行ったり、子育てや生活に関する利用者の悩みを聴いたりしています。一方、個人情報管理や多様性等に関する理解を深める養成講座への参加に加え、定期的に研修を受講しているため、誰でも安心してサービスを利用することができます。

現在organайザーとしてホームスタート事業の調整役を担っている長谷川園枝推進員は、函南町でホームスタート事業が始まった平成24年からホームビジターとして活動を行ってきました。函南町の担当者いわく、長谷川推進員は「町の有名人」。長谷川推進員は、これまでの経験から、定期的な訪問を受けることで利用者の様子が変わってくると言います。ホームビジターが利用者の心に寄り添って話を聴くことでストレスの解消になり、気持ちに余裕ができることで自信が持てるようになるそうです。

◇ホームビジター連絡会議

ホームスタートかなみ・ぴあでは、毎月ホームビジター連絡会議を行っています。会議では、ビジターの活動報告や連絡事項の伝達、今後の取組方針などの話し合いが行われ、サービスの質の向上が図られています。

ある日の連絡会議では、地域で行われるイベント参加へ向けての議論がありました。参加者に喜ばれる出し物やプレゼントの内容・作り方などについて、活発な話し合いが行われました。

ホームビジターの活動のためのスケジュール調整では、てきぱきと確認作業が行われる一方、それぞれの近況報告では、和気あいあいと笑顔が絶えず、皆さんが楽しみながら活動している様子が伝わってきました。



▲連絡会議の様子

おそろいのポロシャツを着用して活動しています

◆ 地域における人づくり実践事例

富士宮人づくりの会

(事務局) 富士宮市教育委員会
社会教育課 家庭・青少年係
問合せ ☎ 0544-22-1188



▲ 第2回講座の様子

富士宮市の人づくり推進員等を構成メンバーとする「富士宮人づくりの会」では、『人づくりは自分づくり』をモットーに、市教育委員会社会教育課と連携し、市民を対象に「富士宮人づくり講座」を開催しています。

富士宮人づくり講座では、自分との対話、他人との対話を大切にしています。令和4年度のテーマは「よりよく生きる～共生～」で、第1回では認知症、第2回では写真道に関する講座が行われました。

◇ 第1回「認知症の気づきと知っておきたいこと」

令和4年6月15日に行われた講座では、認知症疾患医療センター東静岡脳神経クリニック院長の土居一丞先生による、認知症の仕組みや種類、特徴などに関する講演がありました。受講者から周囲に認知症の方がいる場合の対応などの質問もあり、受講者は当事者意識を持って真剣に耳を傾けていました。

市教育委員会からは、近隣で認知症の相談ができる窓口や認知症カフェの情報、認知症サポーターの養成講座の案内等も提供され、周囲や本人の気づきから、行政の支援につなげる・つながることのできる講座となっていました。



▲ 第1回講座の様子

◇ 第2回「写真道～瞬間をつかむ～」

7月17日には、富士宮市在住のビル・ライオンズ氏が、写真家になった経緯やこれまで撮影してきた多くの写真について英語で解説し、配偶者であるマミ氏がそれを日本語に翻訳する形で講演が行われました。

世の中で起こった事実を人々に伝える報道写真は、「時に人々を泣かせ、笑わせ、行動を起こさせる。」とビル氏は語り、実際にスクリーンに映し出された写真を見た受講者からは驚きや、笑いが起こりました。一方、アートとしての写真とは、「目の前のものを撮影しニュースよりも構図や色味に重きを置いたものだが、報道写真がアートになることもある。」と解説し、心奪われる美しさや奇跡の一瞬を捉えた写真が紹介された際には、受講者の感嘆のため息が聞こえました。

また、富士山や富士宮市を撮影した写真が映し出された際の盛り上がり方からは、参加者の地元愛を感じることができました。



▲ 参加者の近くで作品を披露するビル氏(左)とマミ氏(右奥)

◆ 県の取組紹介

人づくり地域懇談会

(事務局) 静岡県スポーツ・文化観光部総合教育課

問合せ ☎ 054-221-3304

✉ sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp



▲ 絵本の読み聞かせを実演している
鈴木玲子推進員(右)

静岡県では、「富国有徳の「美しい“ふじのくに”づくり」に向け、未来を担う「有徳の人」づくりを進めています。家庭や地域における子育てや人づくりについて助言などを行う方を「人づくり推進員」として委嘱しており、現在は99の方が県内で活動を行っています。

人づくり推進員は、学校や公民館等で開催される「人づくり地域懇談会」において、子育てやしつけに関する講話、アドバイスなどを行っています。

◇ 「有徳の人」づくり

県の教育理念や施策の基本方針を、県民の皆さまに分かりやすくお伝えするための「ふじのくに「有徳の人」づくり大綱」が本年4月に新しくなりました。

県では、県民の皆さまに「有徳の人」づくりの考え方を知っていただき、家庭や地域で人づくり活動を実践していただくための助言を行う「人づくり推進員」を委嘱しています。また、県内各地の学校や公民館等で開催される「人づくり地域懇談会」へ人づくり推進員を派遣しています。人づくり推進員の活動が始まった平成12年度から現在までに、累計5,700回以上開催されてきました。

今回は、幼稚園や保育園、学校、公民館等から依頼を受けて行う「人づくり地域懇談会」の実際の事例を御紹介します。



▲ パワーポイントを用いた講演を行う
鈴木緑推進員

◇ 人づくり地域懇談会の事例紹介

①御前崎市立池新田幼稚園では、参観会後の保護者を対象に、島田市の鈴木玲子推進員が講演を行いました。講演では、親子のコミュニケーションや子どもへの寄り添い方について、絵本を活用した具体的な実践方法が紹介されました。また、鈴木推進員が保護者同士の自己紹介や好きな絵本について語る時間を設けたことで、お互いのことを知らなかった保護者同士の交流も生まれました。講演の最後に行われた絵本の読み聞かせの実演では、涙ぐんでいる保護者もあり、温かく和やかな雰囲気での懇談会となりました。

②掛川市立中央小学校では、今年度から委嘱された鈴木緑推進員が、同校の校長を務めていた当時から現在まで続く「あったかアクション」などの取組や同校の特色などを紹介しました。家庭における子育てへのアドバイスでは、日頃から実践しやすい教えにキャッチーなタイトルがつけられることで強く心に残るものとなっていました(例:「どんどん言おう6D」……「どうもありがとう」「だいじょうぶ」「どうしたの」「できるよ、きっと」「できたじゃん!」「だいすき!」……積極的に使うべき肯定的な6つの言葉)。参加した保護者からは「何度か涙を流すのをこらえたほど心に響くものがあった」「子どもをたくさんほめてあげたいと思った」などの感想が寄せられました。

■編集・発行 静岡県 スポーツ・文化観光部 総合教育局 総合教育課(総合教育班)

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3304 FAX 054-221-2905

E-mail sougouEDU@pref.shizuoka.lg.jp URL <http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-170a/>

静岡県の人づくり推進

検索

